

ペンギンの会 ニュース

No.31 2015.12

ペンギンの会を支えてくださつている
みなさま 皆様、気候の変化の慌ただしい季節の最中、

いかがお過ごしでしょうか？

秋・冬号としてペンギンニュースを発行

するのは、十何年ぶりのことになりま
す。

ペンギンでは、東日本大震災発生の
直後から、被災地の障害者支援の街頭カ

ンパ活動を継続していますが、今年6月

上旬、3人のメンバー（繁朋子・繁
周作・湯口真）が福島～宮城～岩手と

被災3県をめぐる旅に出ました。

東日本大震災・東電福島第一原発

事故後の生活を現地の障害者の方から

伺い、訪問先で出会った、あるいは普段か

らお付き合いのある被災地の皆様との

関係を継続しつつ、防災への強い危機感

& 災害への備えを自分たちの自立生活に

絡めていこうという目的での研修旅行

に行ってまいりました。

体力的に難ありのユグチは、福島県内

の旅のみ参加いたしました（郡山市～

田村市船引～双葉郡葛尾村）。各地で聴い

たことをいくつか書いてみます。

1、被災地障がい者支援センターふくしま (福島県郡山市)

郡山市では、現地の自立障害者による

被災障害者の支援事業の拠点にて、

白石清春さんを中心とするスタッフの

皆さんから、取り組まれている内容（お菓

子づくり（※1）・手提げカバン（※2）の

製作・販売など）や、事業のために受け

ている必要な助成・補助（拠点整備業務）

が本年度いっぱいで期限となる事情を踏ま

え、就労支援事業B型への移行・復興

授産製品の販路の拡大・さらに多くの

障害者に対する支援拠点利用への呼び

かけなどといった次の段階への取り組み

について伺ってきました。



※1 『魔法のお菓子ぼろん』



※2 『つながりのかばん28』

(※1、※2ともに郡山市・『ふたば製作所』による商品)

2、福祉のまちづくりの会(福島県田村市)

2日目に訪問した田村市船引では『福祉のまちづくりの会』にお邪魔し、そちらの自立障害者の皆さんから、住んでいる地域が原発事故発生地半径40キロ圏内

ときわめて事故現場に近いにもかかわらず、国が指定した避難指示命令の範囲、補償範囲である事故地点半径30キロ圏内

はないということで、“自主避難地域”として、何の補償も受けられない上、災害時の困難さに端を発した介護時間の変更申請に対する行政対応のまずさや滞り、さ

らにガソリン不足や避難移住などの事情

による介護サービスの不足といった

問題点をお話しいただきました。



3、たむら市民ネット(福島県田村市)

その日の午後からは、『たむら市民ネット』(※3)の石井恵三さん(田村市、旧移村在住)に、船引から東に進んだ原発

事故半径30キロ圏内で全村避難がなされている、双葉郡葛尾村を車で案内していただきました。車が東に進むにつれ、未耕作の畑地に除染廃棄物を詰め込んだフレコンバッグが山と積まれた光景が見えてきました。



郡山駅前前のモニタリングポスト

放射線量計測のモニタリングポストは、予め低く数値が出るように設定されている上、除染がポストの周囲5メートルのみ集中的に行われていること、除染廃棄物の周囲に近づくと、喉が痛くなるような感覚に襲われること、先記のフレコンバッグは耐久性が良いとは言えず、ネズミなどがすでに喰い破っているとの説など、普段のテレビなどでは殆ど触れられることのない生々しい実態を石井さんは伝えておられました。

石井さんは、震災後、福島県各地の様々な地点や、現地で手に入る食物の放射線量を計測されていて、それらを記録した計測表のプリントを頂いたのですが、郡山市のとある中学校の敷地から

さいしゆ けいそく どじょう すうち ねん
採取・計測した土壌の数値が2012年
がつ にち じてん まん
4月25日の時点で6万3000ベクレ
しめ じこまえ ぜんこくへいきん
ルを示し、事故前の全国平均は15から2
0ベクレルだそうです。

ほうしゃせん きゆうしゆう せいしつ
ほかにも放射線を吸収する性質のあ
たぐい さんさい かわうお すうち とく たか
るキノコ類や山菜、川魚の数値が特に高
く、食べることはできないとのこと。

いしい じょうきょう なか
ただ、石井さんはそうした状況の中でも、
うつしちく じたく かおくよこ しゃめん ふか ぶぶん
移地区の自宅の家屋横の斜面の深い部分
つち も じせつ
の土を持ってきて、ビニールハウスを自設
さいえん つく ちいき しょうがいじ やさいづく
して菜園を作り、地域の障害児と野菜作
りにいそしんでおられます。

しんさい げんぱつじ こはっせいこう
震災・原発事故発生以降、ペンギンの
がいと う きょうりよく
街頭カンパでご協力いただきましたお
ころざし ひさいちしょう しゃしえん
志は『被災地障がい者支援センターふ
ちよくせつとど
くしま』に直接届けられています。

こんかい たび わたし しえん い と
今回の旅では、私たちの支援意図・
ないよう ちよくせつつた ひさいち みな
内容が直接伝わっている被災地の皆さ
げんち じか あ じつじょう
んと現地で直にお会いして、その実情を
つた あらた
つぶさにお伝えいただいたことでまた改
きょうと びりよく しえんかつどう と く
めて京都での微力な支援活動に取り組み
ます。



いしい じたくよこ
石井さん自宅横のビニールハウス

しみん けんこう まも
※3 『市民による健康を守るネットワーク』

しみん
(通称 たむら市民ネット)
だいひょうせわにん すずき ただすし ふくしまけんかくち とど
代表世話人 鈴木 匡氏。福島県各地に留ま
ひと こうせいゆう ほうしゃせんけいそくき
る人のために、高性能の放射線計測器・
そくていき しょう いんしよくぶつ どじょう ほうしゃ
測定器を使用して飲食物・土壌などの放射
のう しら かつどう おこ だんたい
能を調べる活動を行なっておられる団体。なお、
いしい とうだんたい そくていき
石井さんは当団体の測定器オペレーターを
たんとう
担当されています。

ひさいしょうがいしゃほうもん たび ほうこくかい 4、「被災障害者訪問の旅」報告会

がつ にち にち こうれい
また、9月6日(日)には、ペンギン恒例
なつ のうりょうかい か こんかい とうほく
の夏の納涼会を兼ねて、今回の東北
ひさいちけんしゅうりょこう ほうこくかい おこな
被災地研修旅行の報告会を行いました
た。

お たむらし
このイベントの終わりごろには、田村市
ふなびき げんぱつじ こはんけい けんない じりつ
船引(原発事故半径40キロ圏内)の自立
しょうがいしゃ きょうとし ひなんいじゅう
障害者で、京都市に避難移住されている
すずききぬえ いそが なか おおあめ
鈴木絹江さんが、お忙しい中を大雨の
さいちゅう か くだ
最中に駆けつけて下さいました。

きぬえ げんち こんなん み
絹江さんは、現地での困難に満ちた
たいけんたん げんぱつじ こ こんご みとお
体験談や原発事故の今後の見通しなど、
さいがい じか けいけん かた つた え
災害を直に経験された方でしか伝え得な
きちょう はなし おもおも
い貴重なお話を重々しくもバイタリテ
あふ くちょう はな くだ だいいちぶ
ィー溢れる口調で話して下さい、第一部と
おこな ほうこくかい お し
して行った報告会の終わりが、グッと締
まったものとなりました。

とうじつ きぬえ い か はつげん
当日、絹江さんから以下のご発言があり
ださいがい お さい しょうがいしゃ
ました。「大災害の起こった際、障害者は
ひなん じぶん ふじゅう
どこか避難するにも、自分たちの不自由な
しんたい じじょう まった し だいたすう
身体の事情などを全く知らない大多数の
けんじょうしゃ と こ なんねん まえ
健全者のなかに飛び込むより、何年も前

から見知った関係の障害者とともに
行動していくことが望ましい。避難後に
最終的に落ち合う先を予め決めてお
いたり、ことが起きたときの当事者・スタ
ッフ共通の行動を定めておくなど。」

この言葉から私が思ったことを一つ。
たとえ災害時でなくても、私たちは日頃
波風立たない平常な暮らしの中で、
不自由な身体・暮らしの不便さなどへの
改善策・向上策への課題と向き合わざる
を得ないし、実際障害が進行しているユ
グチの生活にしても、自分に最適な自立
生活・介護の体制を常時模索していなけ
ればなりません。

災害が起ころうが起こるまいが、介護
体制は必要なのです。災害時にも日頃と
変わらないことを続けるためには何が大事
なのかを今後、ペンギンのメンバーやスタ
ッフ、介護者・支援者含めて考え、行動し
なければなりません（災害時、仮にユグチ
の車イス住宅が無事だったとして、トイ
レや台所その他もろもろ障害者向けの
ものが揃っている場所として、一般の
避難所に行けない車イス障害者の仮の
避難拠点として解放するとか）。

ユグチマコト

福島県田村市から宮城・岩手へ

6月に被災三県の障害者関係のグルー
プを訪問した際にお聞きした話の中から
9月6日の報告会では時間の関係で話せな
かった内容も含んでいます。報告会に来
てくださった方もあらためて読んでいただ
けるとありがたいです。



放射能汚染された土砂などを入れたフレコンバック

<福島県田村市・福祉のまちづくりの会に
て>

ここを拠点に活動されている自立
障害者の方々にお話を聞いたときに
私たちに向けられたのは、毎日被曝の
恐怖にさらされながら40km圏内で生活し
ている者としての実感から来る言葉でした。

「京都では日常で放射能を感じるこ
とがありますか？」

「水道水にしても、スーパーのもの買うに
しても、家の野菜食べるときも、自分の中
で闘っている。これでいいのか？と。」

「子どもの頃から身近で当たり前
に食べてきた山菜が食べられないのが悲しい。」

さらに人々をしんどくさせていることの一つは、同じ地域や職場の人でも、そういう放射能汚染に対する考え方が人それぞれで、細かく気にする人もいるし、一切気にしたくない人もいることです。あまりにも不安が大きすぎるため、そのことを話すとそれぞれ意見が食い違ってぎくしゃくしてしまい、互いに話題にはできなくなっているということを田村市や南相馬市でもききました。

みなみそうまし
＜南相馬市・デイサポート『ぴーなっつ』にて＞

2011年5月9日「福島民友」新聞記事によると、「障害者や災害弱者への「優先避難」が実施されたが、30km圏内の南相馬市では、そのことによって避難所に行けない人や行政サービスと関わりが薄い人は、かえって取り残される結果になってしまった」という記述がありました。

デイサポート『ぴーなっつ』では、震災の一か月後に事業所を再開されました。行政は「許さない」と言ったけれども、「許してもらわなくてもいいです」と言っでの開所でした。震災で閉めていた間に自閉症の人の自傷行為が酷くなったり、身体の人だと、家にこもりがちで歩けなくなった人や鬱々としてしまったりやけを起こす人もいました。そのような中でどうしても開所する必要を感じたからだそうです。

自閉症など情緒障害をもつ人は、県外などに避難したくても環境が変わることに適応するのが困難な人も多います。実際に仙台などに避難した後、体調を崩して戻って来た人もいて、利用者のうち4名が関連死で亡くなってしまいました。働き手の20～30代の人たちは幼い子どもを持つ人が多いこともあり、他の地域へ避難してしまい、介護の担い手は50～60代ばかりで人手が足りません。「ぴーなっつ」では25名いた職員が7名になってしまいました。人手不足から、新人職員の利用者への対応がまずくてもはっきりダメ出しができなくなったりして、その影響は利用者に跳ね返るといこともあったそうです。けれども最近ではようやく職員育成の成果がでてきたとのこと。



弱い人は一番置いてきぼりになるということがこの震災で顕著になったそうです。普段はサービスを使っていない、近所づきあいで生活をされていた障害者が

こりつ けっか お
 孤立する結果になってしまいました。小
 だかちく せいかつ しかく しょうがいしゃ
 高地区に生活していた視覚障害者が
 じえいたい きゅうじょ ひ
 自衛隊のローラー救助に引っかかりませ
 んでした。その後救助され、措置で施設に
 い ぐきゅうじょ そち しせつ
 行くことになりましたが、しばらく出られ
 なくなつて困ったそうです。社会生活を
 おく しょうがいしゃ いがい こりつ
 送っていた障害者が意外と孤立しがちな
 なん とき まん いち とき
 ので、何でも無い時に万が一の時のこと、
 ひなん かんが だいじ
 避難のルートとかを考えるのが大事との
 ことでした。

しょうがいしゃ かぎ いっぱんてき ひとびと
 障害者に限らず一般的な人々の
 げんじょう かせつ いま
 現状としては、仮設で今アルコール
 いぞんしょう おお こどくし ひと
 依存症が多く、孤独死する人もいます。
 みなみそうま ほうしゃのう じよせん
 南相馬には放射能の除染などでダンプが
 おお さぎょうふく ひと いっぱい
 多くて、作業服の人でスーパーが一杯だ
 とか、いろいろとプラスに考えられなくな
 ってうんざりする時があるそうです。だか
 ら、ほとんどの人は土日に南相馬に居なく
 て、どこか別の場所へ出かけて息抜きをし
 ないとやりきれない気持ちになるとのこと
 でした。一見復興してきているようにも見
 えませんが、町の人々の心は荒みきって、
 としよ はなし
 お年寄りがレイプされたという話もある
 と聞かせてもらいました。



ひさいちしょう しゃ いのまき
 被災地障がい者センター石巻にて

みやぎけんいしのまきし ひさいちしょう しゃ
 <宮城県石巻市・被災地障がい者センタ
 いしのまき
 ー石巻にて>

しやくしよ ひなんじょ ふくしひなんじょ
 市役所が避難所となっていて福祉避難所
 しんさいご うご
 がなく、震災後は動くことができませんで
 うみ じたく いえ
 した。海から2 kmに自宅があつて、家は
 だいきぼはんかい けつきよくす じょうたい
 大規模半壊だが結局住めない状態にな
 へい たか いえ
 りました。塀の高さ1.5mくらいまで家に
 みず はい えんがい ていでん でんどうくるま
 水が入つてきて、塩害と停電で電動車
 つか じりき い
 イスなど使えなくなり、自力でどこにも行
 けなくなつたというのが辛かつたとのこと
 です。車イスはだいたい半月かかつて
 しきゅう でんしゃ すんだん
 支給されましたが、電車が寸断されたり、
 ひ つうかん
 バスの非バリアフリーぶりを痛感すること
 になりました。

てつきよ げつご さいてい
 ゴミなど撤去して、2か月後には最低
 げんど す じょうたい もど みず
 限度の住める状態には戻りましたが、水
 えんがい あまも すきまかぜ
 をかぶつたことによる塩害、雨漏り、隙間風
 しゅうだんいてん せいど
 がありました。集団移転という制度があり、
 かぞく そうだん ことし がつ いえ うつ
 家族で相談して今年の1月に家が移りま
 した。

ひなんじょ ぶつし とど
 避難所にしか物資が届けられなくて、
 じたく ひと とど
 自宅にいる人に届けられないということも
 いしのまきしない じたく かた
 ありました。石巻市内に自宅のある方の
 れい がつこうはん きゆうえんぶつし
 例では、4月後半くらい救済物資のパン
 き ちょうない おろ はいぶん
 とおにぎりが来て、町内に卸して配分す
 かたち かくいえ とど
 るという形で各家にも届くようになりました。
 つなみひがい しんさい まえ
 津波被害については、震災のちょっと前
 じしん つなみ かんそく
 に地震があつて津波を観測しましたが、ち
 すい い あ
 よつと水位が上がつたくらいだったので、
 おお つなみ く おも に
 大きな津波が来るとは思はず逃げきれなか

一人もいたそうです。

地震から津波まで45分のタイムラグがあったので物を取りに戻って亡くなった人もいました。すぐ高い日和山に逃げた人もいましたが、後には渋滞が発生しました。

メンバーの一人の家では、本当に音もなくスーッと水が入ってきましたが、別のリニア式海岸では、ものすごく高い波が上からたたきつけるような形で襲ってきて、家など跡形もなくなると聞いているそうです。隣の地区のデイサービスに行っていたメンバーは、家族で災害時にどこに集まるかを決めていたのでそこに集まることができたそうです。

障害者でも隣近所で挨拶交わしたり、そういう繋がりがいざという時に気にかけてくれたりすることに繋がるので、地域性が大事だと思うとのことです。

福祉避難所という考え方は、障害者が社会で自立生活の場を作ってきたことから考えると隔離という面で逆行しているのではないかと捉え方もありますが、どう思いますかというこちらからの問いに対して、「講演で実際に身体的・発達で避難をやってみたという話を聞いた。その場合運営が大事で行政も運営担当で配置して。そういう訓練で受け入れる側の姿勢ができていれば、一般の避難所に障害者が来ても受け入れられるんだらう。その人も福祉避難所というよりはどこでも受け入れるというのが大事とい

う考えの人で、やっぱり人が大事。それがあれば協力できていける。結局みんな居辛くて避難所を出ていく。そうならないためには日頃からの備えが必要。」とのことでした。

避難生活の時、何が無くて一番困ったかという問いに対しては、電気、水、障害者用トイレ、ガソリン（スタンドに蓄えがあってもポンプで吸い上げるには電気が必要）。役に立つものは、プロパンガス、カセットボンベ式発電機、水洗でない昔の汲み取り式のトイレとのことです。



仙台市のスロープ付き避難タワー

2015年2月14日に完成した仙台市の避難

タワーにはスロープが付けられましたが、3月27日に完成した石巻市の避難タワーには階段しかついていません。市に要求しても頑なに拒否して「スロープを付ける構造上弱くなる」と言っていますが、仙台市ではスロープを付けることで構造上強化できたとも言っているらしく、新聞発表でも予算は同じ2億円なので、本当の理由はどこにあるのか不明です。

いわてけんおおふなとし ひさいちしょう しゃ
＜岩手県大船渡市・被災地障がい者センター
—おおふなと・センター—123 にて＞



けんじょうしゃ ねんかん はい
「健全者は3年間しか入れなくて、
さいしょ むね せいやくしょ か なん
最初にその旨、誓約書を書かされる。何の
ふっこうじゅうたく
ための復興住宅かわからない。そういう
こと だれ はい
事わかってるから誰も入らない。半分入っ
てればいい方だ」(後日ネットで調べたら、
せたいにんずう き こうじょがく さ
世帯人数によって決まった控除額を差し
ひ げっしゅう じょうげん き
引いた月収の上限が決まっています、それ
こ ねんかん で
を超えると3年間で出なければならないそ
うです)。

いっぼう ろうじん しょうがいしゃ ばあい にゅうきよ
一方で、老人、障害者の場合は入居
ゆうせん ねんかん きげん
が優先で3年間の期限はありません。しか
いろ せだい たよう ひとひと す
し色々な世代や多様な人々が住めてこそ
ちいきしゃかい かつき で おも かぎ
地域社会は活気が出てくると思います。限
ひと にゅうきよ ふっこうじゅうたく
られた人しか入居できない復興住宅に
みらい てんぼう も かん
未来の展望が持てる感じはしないとのこ
とでした。

おおふなと ふっこうこうじ うみ み
大船渡では復興工事として海が見える
かいはんぜんぶ おお つ うみ み
海岸全部を覆い尽くして海を見えなくす
きょだい ぼうちようてい けんせつちゅう
る巨大な防潮堤の建設中でした。

うみ ざいさん まち うみ み
「海が財産であるはずの街の海が見えな
こうじ すす しょうらい こ
くなる工事が進められている。将来の子
このこ じまん じもと ふうけい
どもたちに残すべき自慢の地元の風景が

まった み ぼうちようてい
全く見えなくなるんだよ。防潮堤じゃな
くて、つなみ き とき に
津波が来た時にちゃんと逃げられる
みち つく けつきよく せいじか め
道を作るべきなんだよ。結局、政治家は眼
み かねだ
に見えるものじゃないとお金出さないんで
しょ。アンケートとったらみんな反対でし
よ、だけど町の声なんて聞かない。市長は
くに よさんと ひっし
国の予算取るために必死になってそんなこ
とやる。」

うみ み ひが い すく
海が見えているところは被害が少なく、
うみ み ひが い おお
海の見えないところで被害が大きかったと
き しつもん
聞いたんですが、どうでしたかと質問する
と、

りくぜんたかた ふくごう
「陸前高田に、リプルという複合ショッピ
ングセンターがあったんです。逃げる途中
ゆうじん き はなし つなみ ふんまえ
の友人に聞いた話 だけど、津波5分前
もそこに普通に人がいたらしい。あそこは
うみ み ふつう ひと
海が見えないから、道も混んでなかったそ
うです。そこはかいがん
うみ み みち こ
海が見えないから、道も混んでなかったそ
うです。そこはかいがん
なみ せま いっしゆん
で。だから波が迫ってきたら一瞬だね。
あそこにいたみんなダメだったんだろうね。
うみ み こわ
海が見えないというのは怖い。」



おおふなとし きょだいぼうちようてい
大船渡市の巨大防潮堤

りくぜんたかた きせき いっぽんまつしゅうへん かさあ
 <陸前高田・奇跡の一本松 周辺の嵩上げ
 ようどしやうばんよう きょだい
 用土砂運搬用の巨大ベルトコンベアにつ
 いて>



りくぜんたかた つなみ ひさい こうだい ちいき
 陸前高田では津波で被災した広大な地域
 かさあ こうじ おこな やまはだ
 の嵩上げ工事が行われていました。山肌
 けず たいりょう どしや かさあ こうじげんば
 を削った大量の土砂を嵩上げ工事現場ま
 はこ じかん
 で運ぶのにトラックでは時間がかかりすぎ
 るということで、巨大なベルトコンベアが
 は めぐ かどう ねん
 張り巡らされ稼働していました（2015年9
 がつ にち わたし りくぜんたかた えんどう
 月15日まで）。私たちが陸前高田の沿道
 くるま はし ひく じこく
 を車で走ったのは日が暮れてからの時刻
 むすう て
 でした。無数のライトに照らされたその
 きょだい けんぞうぶつ み とし なに まった
 巨大な建造物を見た時、何か全くわから
 いかい うちゅうようさい ま なか はい
 ず、異界の宇宙要塞の真ただ中に入り
 こ きぶん
 込んだような気分になりました。

ネットなどで後日調べたところでは、126
 とち ぜんたい かさあ
 ヘクタールの土地全体を 12m嵩上げする
 おく こうじ しんさい
 のに 1200億かける工事だそうですが、震災
 とし つなみ いじょう
 の時の津波は 18m以上だったことから、
 じゅうみん こんど つなみ き
 住民からは「今度また津波が来たらそんな
 ぞうせい とち
 造成した土地はまたひとたまりもない。そ
 とち だれ す
 んな土地に誰が住むのか？ゼネコンだけ
 もう ふっこう じゅうみん いこう むし
 を儲けさせる復興で住民の意向を無視し

ふまん こえ ひと すく
 ている。」と不満の声をあげる人も少なく
 かんぜん くかくせいび お
 ないそうです。また完全に区画整備し終わ
 あと ねんほど せいかつ
 るまで後5年程はかかるらしいので、生活
 た なお ま いてん
 の立て直しにそれまで待てないので移転を
 かんが ひとびと おお
 考える人々も多いそうです。

おおふなと きょだい ぼうちやうてい けんせつ こうじ
 大船渡の巨大防潮堤建設工事と
 りくぜんたかた きょだい つか
 陸前高田の巨大ベルトコンベアを使って
 かさあ こうじ けんがく おも だ
 の嵩上げ工事を見学して思い出したこと
 はんしんだいしんさいご こうべ ながた しょうぎやうち
 は、阪神大震災後の神戸・長田の商業地
 ふっこう こと おな
 の復興の事も同じだったではないかとい
 きれい た
 うことです。綺麗なハコを建てたはいいが、
 いじやうしゃっきん せ お せいかつ
 これ以上借金を背負っては生活してい
 はいぎやう ひと
 けないということで廃業した人もいて、
 あ てんぼ おお にぎ しょうてんがい
 空き店舗が多く、賑わいのない商店街に
 き じゅうみん いこう さまざま
 なったと聞きます。住民の意向も様々で
 しゅうやく だいきぼ
 集約しにくいのもわかりますが、大規模
 こうじ よさん つか ふっこう
 工事にさえ予算を使えば復興ができると
 まちが おも
 いうのは間違いではないかと思つづく思っ
 たび
 た旅でした。

しげともこ
 繁朋子



ひさいしょうがいしゃほうもん たび ほうこくかい ほうこく しげしゅうさく
【被災障害者訪問の旅・報告会のご報告】 繁周作

ペンギンの会では去る6月8～13日「被災障害者訪問の旅」と称して、
メンバー3名+スタッフ1名で東日本大震災の被災三県（福島・宮城・岩手）
を訪問する研修旅行を実施し、私もメンバーの一人として参加させて頂
きました。

また9月6日には、その
報告会も開催させて頂
きました。

報告会当日は天候が悪く
雨模様でしたが、予想を超える
方々がお集まり頂き大変有
り難く思いました

主催者側のひとりとして
改めて御礼申し上げます。



◆ペンギンの会としての今後の取組

私も今回の旅で直に被災者の方とお会いしお話しさせて頂き、感じた
こと思うことはいろいろありましたが、報告会では旅の報告は他の2人に任
せ、私はそれらを踏まえて「今後の支援のあり方・障害者の防災への取組」
についてお話しさせて頂きました。

まだまだ当会の中でも議論が尽くされたわけではなく、議論の余地は多々あ
りますが、方向性としては…

- ・これまでの「募金活動などの被災地支援」を継続する
- ・その延長線上で新たな取組として「障害者の防災」を自立障害者
の目線で考えていく

…という事で一致しています。

具体的な今後の取組方については引き続き議論していきたいと思っています。

◆ 「障害者の防災」について

さて一般的な「障害者の防災」の課題としては…

- 平素からの障害者の所在把握
- 災害時に誰がどうやって救出し避難するか
- 避難所の有り方
- 仮設住宅の有り方
- 復興住宅の有り方
- 自立生活支援の有り方（介護や生き甲斐などを取戻す）

…などが考えられています。私達も「障害者の防災」を考えるならばこれらの課題を考えていかななくてはなりません。

ですが、私達は「防災の専門家でもなければ、被災当事者でもない」わけで、「私達の出来る範囲の中で何をどうすればいいか？」という具体策を考えあぐねていました。

そのヒントを今回の旅で得ることが出来ました。

それは被災者の方のお話の中での一言でした。

その一言とは…

「どうか私たちのことを忘れないで欲しい！」

というお言葉でした。

それで気付いた事は…

被災者を忘れないことが防災や復興支援に繋がる！

ということ。つまり…

- ・被災者の教訓を活かすことが防災につながる
- ・被災者の事を忘れず思い続けることが復興支援に繋がる

ということでした。

それで以前から漠然と考えていた「障害者防災のホームページ」が一気に具体的なイメージとなり…それが障害者防災情報サイト「ペンギンアイズ（仮称）」です。

[トップページ](#)

[あの日を忘れない](#)

[防災を考えよう](#)

[防災活動・イベント](#)

[被災復興支援](#)



「ペンギンEYES（アイズ）」とは？

障害者の目線で情報を集約し、過去の災害の体験・記録を教訓として残し、それを基に障害者の防災・減災を私達と閲覧して下さった皆さんと一緒に考える場です。当初は他のサイトへのリンクが中心となりますが、皆様のご投稿と私達の取材により順次拡充していきたいと思っています。皆様のご協力をお願い致します。

自立障害者グループ「ペンギンの会」

※リンク先サイトの内容に関する質問等は各サイトの管理者にお問い合わせ頂きますようお願い致します。

※ 「ペンギンEYES」最新情報

2015年9月1日 仮オープンしました。

[▲トップに戻る▲](#)

※ 「ペンギンEYES」ピックアップ

▶ [あの日を忘れない](#)

過去の災害における障害者の被災体験談や写真などの資料を掲載しています。



▶ [防災を考えよう](#)

障害者の防災・減災についての当事者や研究者の知見を集めて紹介します。



▶ [イベント&活動紹介](#)

各地の障害者の防災・減災に関するイベントや活動を紹介します。



▶ [被災復興支援](#)

被災地や被災地に住む障害者の現状を伝えるとともに、復興支援や自立支援への取り組みの実例を紹介します。



[▲トップに戻る▲](#)

Copy right© 自立障害者グループ「ペンギンの会」 2015 All rights reserved.

京都市伏見区竹田久保町62足立ハイツ竹田132号 TEL/FAX : 075-755-8177 (平日 9:30-17:30)

アイズ かしょう 「ペンギンEYES（仮称）」とは？

しょうがいしゃ めせん しょうぼう しゅうやく か こ さいがい たいけん きろく きょうくん
障害者の目線で情報を集約し、過去の災害の体験・記録を教訓とし
のこ もと しょうがいしゃ ぼうさい げんさい わたしたち えつらん くだ みな
て残し、それを基に障害者の防災・減災を私達と閲覧して下さった皆
さんといっしょ かんが ば
さんと一緒に考える場です。

ほんこう しょうさい せつめい はぶ ひま とき ぜ ひ
本稿ではホームページの詳細な説明は省きますが、お暇な時にでも是非
いただ おも
アクセスしてみてください 思います。(URL:http://eyes.penguin-kai.org/)

なお、このホームページは内覧のための仮オープン 中 です。

ないよう ふじゅうぶん ふかくてい ぶぶん あらかじ りょうしょうくだ
内容が不十分・不確定な部分もありますので 予 めご了 承下 さい。

ねん がつ にち せいしき ないよう じゅうじつ
2016年3月11日の正式オープンまでにはより内容を充実させ、
しょうがいしゃぼうさい いちじょ がんば おも
障害者防災の一助となるよう頑張りたいと思います。

◆ どうやって内容を充実させていくか？

げんざい ないよう
現在のホームページの内容は

- ・ ペンギンの会自身の活動
- ・ 障害者防災に関する書籍やDVDの紹介
- ・ 障害者防災に関する外部サイトへのリンク

これらだけにほぼ限られています。

そこで今、考えられること（私見）は・・・

＜投稿を増やす＞

- ・ 今回の旅で聞き取ったことを本人の了承を得て記載する
- ・ 知り合いの中で投稿して頂けそうな方をお願いする
- ・ 知り合いに投稿して頂けそうな方を紹介して頂く
- ・ このサイトを広く広報して、協力者や団体を増やす

＜知見を増やす＞

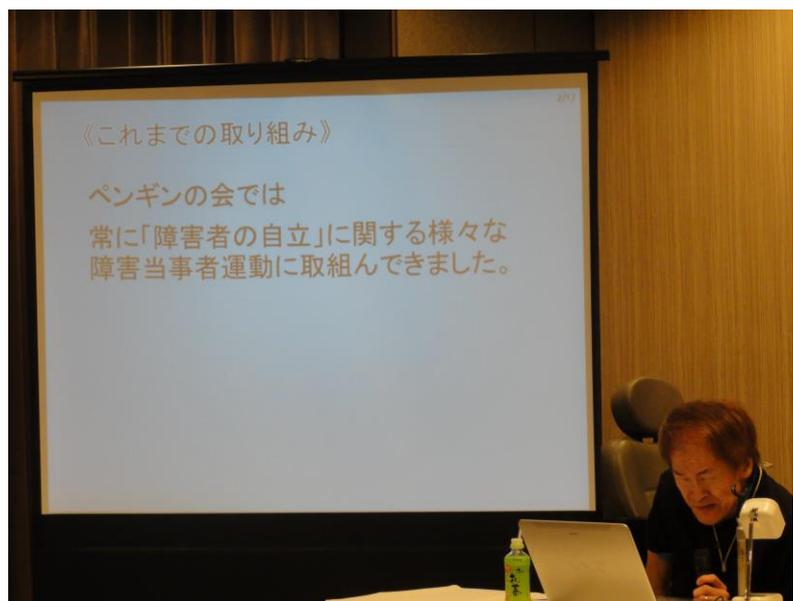
- ・ 書籍やレポートの著作権者から引用の許可を得る
- ・ 知見者取材する

◆ 実社会での活動

たほう しょうがいしゃぼうさい
他方で障害者防災に

かん かつどう め む
関する活動に目を向け

ますと、世間一般的に見
て「まだまだこれからだ
な」と思うことが多々あ
ります。



◆ 障害者防災を考えている現場の実例

例えば今年8月に「原子力災害時の要支援者の避難計画についての京都府担当部局との会合」に同席させて頂いたときの話です。

内容は「高浜原発が福島原発と同程度の事故を起こした場合に府内の障害者・高齢者・傷病者などの要支援者の避難をどうするか」というものでした。

ところが京都府担当部局の話では…

・避難対象は高浜原発から30km圏内に限る

・避難先は30km圏外の京都市内に限る

・対象は福祉施設および病院などの医療施設に入所または入院されている方

・現在は避難対象施設と受入可能施設のマッチング（対応）を終えた段階でこれだけでした。

当然ながらこれに対して次々と質問がでました。例えば…

Q. 半径30km圏内で区切って本当に大丈夫か？

A. 絶対安全とは言い切れないが福島で示された国の基準に添っている

Q. 風向きによっては隣県に避難した方がいい場合もあるのではないかと？

A. そういふ場合があるのは認識しているが、マッチングが難しく今後の課題だろう

Q. 避難のための交通手段は確保されているのか？

A. 官民を問わずお願いしているところだ

Q. 受け入れ側の人材は確保されているのか？

A. 現段階では施設のマッチングを終えたところ。人材の件はまだ検討中

Q. 在宅の要援護者の避難はどうなるのか？

A. 在宅の要援護者の避難は市町村にお願いしている、市町村の担当課に

聞いて欲しい

…と全てがこんな感じで、聞いてるだけでイライラしてきました。

遺憾ながら「このままでは福島の大惨劇が必ず繰り返される！」と確信しました。

これは「原発事故時の避難対策」の例ですが、多分、その他の大災害でも同

じょうなことはないかと思われ^{おも}ます。

◆^{われわれ なに}では我々は何をどうするべきか？

^{な ち え しほ かんが}無い知恵を絞って考^{おも}えてみました、

- ・ ^{しょうがいしゃぼうさい かん かつどう た だんたい れんけい}障害者防災に関する活動をする他団体との連携
- ・ ^{しょうがいしゃぼうさい かん かいぎ さんか}障害者防災に関する会議に参加
- ・ ^{しょうがいしゃぼうさい かん ようぼう かんけいきかん こうしょう}障害者防災に関する要望をまとめて関係機関と交渉
- ・ ^{ちいき ひなんけいかく ふくしひなんじょけいかく さくてい かか}地域の避難計画や福祉避難所計画の策定に関わる
- ・ ^{さいがいじ ひさいちしょうがいしゃしえん じんそく た あ じゅんびたいせい}災害時に被災地障害者支援センターが迅速に立ち上るように準備体制

^{ととの}を整^{ととの}えておく

いうまでもなく、これら^{すべ}全てをペンギンの会^{かい}だけで出来^{でき}ることではありませ^んん。

まずは^{じんみやく つく}人脈を作り、ネットワーク^{つく}を作り、人^{ひと}や団体^{だんたい}と連携^{れんけい}していくこと^{ひつよう}が必要です。

^{だいさいがい お とき しょうがいしゃ ぎせい ひとり すく みな}大災害^{だいさいがい}が起こった時に障害者^{しょうがいしゃ}の犠牲^{ぎせい}が一人^{ひとり}でも少^{すく}なくなるように皆^{みな}さんと一緒^{いっしょ}に非力^{ひりき}ながらも頑張^{がんば}っていき^{おも}たいと思^{おも}います。

^{こんご きょうりよく しえん ほど ねが いた}今後^{こんご}ともご協^{きょうりよく}力^{りよく}とご支^{しえん}援^{えん}の程^{ほど}をよろしくお願^{ねが}い致^{いた}します。

しげしゅうさく
(繁周作)





ペンギンの会メンバーの近況報告

李清美さんは最近、個人のブログとfacebookを始めました。ブログ『私はマイノリティ ～李清美のブログ ある自立「障害」者のつぶやき』（仮称）（<http://toraji-and-hayang.blogspot.jp/>）にその思いが綴られていますので、下記に転載いたします。見ることのできる環境にある方はぜひ訪ねてみてください。

ブログ・facebookをはじめた動機を少し、書こうと思います。

私事ですが、2009年に本を出版しました。（『私はマイノリティ あなたは？』現代書館刊）その頃から、「障害」を持ちながら自立を目指す人たちと出会い、つながっていきたくて思ってきましたが、私から出向いて行くことはなかなかできません。それでもなんとか伝えていけないだろうか、と介護者と話し、インターネットに本のダイジェスト版を公開すれば「障害」者の人たちにも読んでもらいやすいし、翻訳をすれば韓国の「障害」者ともつながれるのではないかと話が進み、こうしてブログを立ち上げることができました。facebookも始めました。

タブレットやマウスの使い方もいろいろと覚えていかなければならないので、これから忙しくなりそうです。今の体調では目を酷使できないので、ポチポチとつながらせてください。コメントにもすぐお返事できないと思いますが、これからよろしくお願ひします。

李清美

みやけみつお
三宅光男です。

きよねん がつ かいめ
去年の 10月に 3回目のガン
しゅじゅつ ねん す
手術をして、1年が過ぎました。
かん すうしゅうかん ど きょうと
この間、数週間に 1度、京都
いりょう しんさつ
医療センターでの診察とCT・M
けんべん けんさ
RI・検便などの検査をしています。

ことし がつ けんべん べんせんけつ
今年の10月の検便で、便潜血
しょうかきないか がつ
がみつきり、消化器内科にて12月
だいちょう ないしきょうけんさ う
に大腸の内視鏡検査を受ける
ことになりました。

がつ ちゅうじえん
それと、8月には中耳炎により
みみ で ちか じびか
耳だれが出て、近くの耳鼻科で
しゅう かい ちりょう う
週2~3回の治療を受けていま
す。

ひ せいかつ しょくじ もの の こ じかん
日ごろの生活は、食事で物を飲み込みづらくなって、時間がかかるようにな
りました。お酒は毎日晚酌をたしなむていどに楽しく飲んでいきます。

それでは、また。



わたし あずまじゆんのすけ もう
私は東純之介と申します。

ぞんじ かた し おも
ご存知の方は知っていると思いま
すが、わたし はペンギンの会には 幼
ころ かか さいきん
い頃から関わっています。最近
かいぎ かつどう さんか
会議やカンパ活動などにも参加す
るようになりました。今は家では
ほうりつ しかく と まいにちがんぱ
法律の資格を取るべく毎日頑張っ
ております。よろしくお願ひします。

【ペンギンの会 2015年度上半期の行事・できごと】

★4月11日（土）

お花見
場所：醍醐寺



醍醐寺の桜の前で集合写真

★6月8日（月）～13日（土）

被災障害者訪問の旅

行程：郡山市（福島県）⇒ 田村市（福島県）⇒ 南相馬市（福島県）⇒ 石巻市（宮城県）
⇒ 大船渡市（岩手県）

繁周作、繁朋子、湯口真、田原孝平が参加。東日本大震災で被災した東北地方の障害者団体、福祉事業所を訪問し、お話を聞いてきました。



震災当時のまま残されたマンション（陸前高田市）

が づ に ち
★9月6日（日）

ひ さい しやう が い しゃ ほ う もん た び ほ う こ く かい の う り よ う かい
「被災障害者訪問の旅」 報告会 + 納涼会

ば し よ け い ま ん き よ う と
場所：ホテル京阪京都



ほ う こ く かい よ う す
報告会でのパネラーの様子

が づ に ち
★10月18日（日）

ひ が し に ほ ん だ い し ん さい ひ さい しやう が い しゃ し え ん が い と う
東日本大震災被災障害者支援 街頭カンパ

ば し よ し じ ょ う か わ ら ま ち ほ き ん が く
場所：四条河原町 ※募金額 ¥30,855-

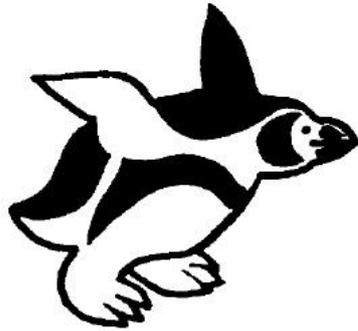


し じ ょ う か わ ら ま ち ひ さい しやう が い しゃ し え ん う っ た
四条河原町で被災障害者への支援を訴える

が づ に ち に ち
★10月25日（日）～29日（木）

お き な わ け ん し ゅ う ち か ら か い
沖縄研修（カタンナーパの会）

し げ し ゅ う さ く し げ と も こ み な み ま も る さ ん か へ の こ た か え い え じ ま ま わ
繁周作、繁朋子、南守が参加。辺野古、高江、伊江島などを回りました。



じりつしょうがいしゃ かい
自立障害者グループ ペンギンの会

〒612-8411

きょうとしふしみくたけだくぼちょう ばんち
京都市伏見区竹田久保町62番地

あだち たけだ ごう
足立ハイツ竹田132号

ちかてつからすません ぼしえき とほふん
(地下鉄烏丸線 くいな橋駅 徒歩4分)

でんわ とも
電話：075-755-8177 (FAX共)